

日本地域学会ニューズレター

令和2年 no.2

令和2年11月10日

目次

I.	副会長挨拶	… 2
II.	日本地域学会第57回年次大会（令和2年12月12日（土）、13日（日）） オンライン開催について	… 2
III.	令和元年度日本地域学会総会（令和2年12月12日（土）） （オンライン）出席のお願い	… 3
IV.	2021・2022年期 日本地域学会理事選挙 投票締切：令和2年11月30日（月）	… 3
V.	理事会報告 令和元年度第7回—令和2年度第4回理事会	… 4
VI.	委員会報告	… 5
	1. 学会賞選考委員会	
	2. 機関誌編集委員会（第65回及び66回についての報告）	
	『地域学研究』バックナンバー申込み	… 7
	正会員入会申込書	… 8

I. 副会長挨拶

日本地域学会

副会長 戸田 常一

高橋秀悦会長のもとで、副会長の松本昭夫先生と徳永澄憲先生とともに2019-2020年期の副会長を務めており、ひとことご挨拶申し上げます。振り返ってみれば、私が本学会に入会してから45年を過ぎ、2001年以来20年の間、継続して理事を務めています。その間、2009年に広島大学で開催した第46回年次大会の実行委員長を務めたことが感慨深く思い出されます。入会して以来45年間、ほぼ毎年年次大会には参加しており、全国各地の会場を訪れ、皆さんと集うのが楽しみでした。しかし、今年の第57回年次大会は新型コロナウイルス災禍により12月12日（土）と13日（日）の2日間、「オンライン大会」という非常時の態勢で開催されます。開催校である東洋大学の佐々木啓介先生をはじめ関係の皆様方にはオンライン大会の開催準備ならびに当日運営において大変にお世話になりますが、よろしく願いいたします。

以下では挨拶に替えて、新型コロナウイルスの影響をヒトの移動や集会の面から考えてみたいと思います。まず、感染は国外において先行して大きく拡大しました。1月から2月にかけて中国を発端に韓国、イラン、イタリアなどで大規模感染が確認され、3月11日にはWHO(世界保健機関)が「パンデミック(世界的大流行)」を表明しました。同時に、米国は欧州からの入国を停止し、さらにすべての国外渡航の中止勧告を出し、国内においても移動制限を強めました。3月22日には米国の3州(ニューヨーク、ワシントン、カリフォルニア)において大規模災害認定がなされ、感染確認者は4.3万人を超えています。同じ時期、欧州のイタリアでは感染確認者は4.7万人、スペインやドイツにおいて2万人を超え、各国各都市において市民の外出禁止が要請されました。それ以降、感染はブラジルやインドなどに世界各地に拡大し、9月10日現在では累計で2,773万人となっています。

一方、国内の感染は1月末から3月上旬にかけて、中国・武漢からの日本人帰国、クルーズ船乗客乗員の

帰宅、中国からの個人旅行者の大きく3つのルートを通じて流入しました。これにより発生した、国内の感染者数の1回目のピークが4月中旬、2回目のピークが8月上旬でした。政府は1回目の感染拡大を防止するために、4月7日に「緊急事態宣言」を発令しました。同宣言のもとでは、外出や休業の要請に加え、水際対策の強化や航空機・船舶の運航制限の要請が可能となります。5月25日に同宣言は解除されてそれ以降、感染確認数は6月下旬ごろまで鎮静化していました。しかし、それ以降に再び拡大しました。9月10日時点では全国累計で7万3105人となり、首都圏はこのうちの約47%を占めています。国内外とも、感染拡大を防ぐために、ヒトの移動やヒトの集まりを抑制しています。これらは感染拡大を防ぐための有効な措置と考えられます。その際、国外の多くの国々ではヒトの「移動制限」や「イベント・集会禁止」などの強制的な措置が多く取られており、日本ではヒトの「移動自粛」であり「イベント自粛」となっています。日本の場合の自粛は、根拠法令である「新型コロナ特措法」においてこれらの行為に強制力を担保していないことが理由です。いずれにせよ、ヒトが自由に集まり、自由に集まることに制限を設けることには相異はありません。もともと地域経済や地域社会は開放的であって、国内外とも基本的には自由なヒトの移動や集会在地域の活力向上に繋がってきました。その自由な移動や集会を制限することは非常時のひと時のことであり、日常の態勢に戻れば大丈夫、と考えれば済むのかもしれませんが、しかし、いつ非常時が再来するか見通せない状況においてのヒトの移動や集会は、このようなリスクを想定しなかった以前の状況と同じでしょうか。感染リスクの再来を前提にしたヒトの移動や集会のあり方について、つい考え込んでしまうのです。

II. 日本地域学会第57回年次大会

令和2年12月12日(土)、13日(日)

第57回年次大会が **Webex** によるオンライン開催となりました。

記

開催日：2020年12月12日(土)～13日(日)

運営：東洋大学

*申し込みは、締め切りました

*シンポジウム、特別セッションは実施致しません

*大会参加費は徴収致しません

*今後の新型コロナ問題やその他の事情により、予定が変更される可能性もございます

(大会実行委員会)

委員長 佐々木啓介 (東洋大学経済学部教授・経済学研究科長)

委員 加賀見一彰 (東洋大学経済学部教授)

委員 松崎大介 (東洋大学経済学部教授)

委員 久米功一 (東洋大学経済学部准教授)

委員 川上淳之 (東洋大学経済学部准教授)

(大会事務局)

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学経済学部 佐々木啓介研究室

(大会実行委員会メール)

jsrsai_presen_online@yahoo.co.jp

Ⅲ. 令和2年度日本地域学会総会 (オンライン)

令和2年12月12日(土)

日本地域学会会員各位

日本地域学会

会長 高橋 秀悦

本年度総会を下記要領で開催致しますのでご出席ください。なお、欠席される場合には日本地域学会ホームページに掲載されます「年次大会申込フォーム」より、委任状をご提出下さい。

記

日時：令和2年12月12日(土) 13:30

総会次第

1) 開会の辞

2) 会長挨拶

3) 議題

(1) 新入会員・退会希望者の承認

(2) 平成31(2019)年度の事業報告の承認

(3) 平成31(2019)年度の収支決算の承認

(4) 令和3年度の事業計画の承認

(5) 令和2年度の収支予算(修正案)の承認

(6) 令和3年度の収支予算の承認

(7) 第58回(2021年)年次大会の開催地

開催校等の承認

(8) 第59回(2022年)年次大会の開催地

開催校等の取扱いの承認

(9) その他

4) 報告

(1) 新入会員キャンペーンの継続

(2) 『地域学研究(第50巻)』の編集

(3) RSAI の動向

(4) PRSCO の動向

(5) 学会賞受賞者報告

以上

Ⅳ. 理事会2021・2022年期中日本地域学会理事選挙

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会理事候補者選挙

日本地域学会

会長 高橋 秀悦

標記について、従来通りの方法に従い、ここに同封の官製はがきを使用して郵便による3名連記、無記名投票を実施します。投票締切は令和2年11月30日

(月)当日消印有効です。

理事会ではこの選挙結果をもとに、投票数、分野、地域等を考慮して、2021・2022 年 期 日本地域学会理事候補者名簿を作成し、令和 2 年 12 月 12 日(土)13:30 より東洋大学オンラインにて行われる令和 2 年度総会に諮ります。

V. 理事会報告

令和元年度 第 7 回理事会

日時：令和元年 12 月 15 日（日）13:00-15:00

場所：学術総合センター 2 階会議室 202・203

出席者：石橋、内田、鐘ヶ江、木南(莉)、國光、櫻井、渋澤、佐々木、鈴木、高野、高橋、多和田、徳永、中山、野崎、氷鉦、細江、正岡、松本、水野谷の各理事(ただし、浅見、阿部、戸田、三友、柳原、吉田の各理事より委任状付託；以上理事 26 名出席)；オブザーバとして臼井、河野、三橋の各顧問、酒井顧問兼学会賞選考委員長、；内藤、森岡、小川、野崎(乃)、黛の各幹事；内村事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より、前回の理事会以降申し込みのあった 5 名の正会員(個人)の入会と 2 名の正会員の退会希望を審議し、次回総会に諮ることを諒承。

2. 第 56 回年次大会会計報告

実行委員会の代理として細江理事より年次大会収支報告があった。さらに、水野谷常任理事より事務局経費の報告があった。これを諒承。

3. 第 57 回(2020 年)年次大会準備委員会について

佐々木理事より 57 回年次大会準備委員会構成についての説明がなされた。東京オリンピック・パラリンピックの関係により日程の最終的な確定は 4 月となる旨の報告があった。これを諒承。

4. 日本学術会議会員・連携会員の候補者に関する情報提供について

水野谷総務担当常任理事より、候補者の推薦につい

ての説明があった。

氷鉦企画担当理事より 2019-2020 年 期の会長と副会長推薦についての提案がなされ、これを諒承。

5. 『地域学研究』セット販売の推進

水野谷総務担当常任理事より、『地域学研究』セット販売の推進についての説明と依頼があり、これを諒承。

6. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

高橋会長より新入会員勧誘キャンペーンの推進について説明と依頼があり、これを諒承。また、入会勧誘キャンペーン担当者の変更について提案があり、これを諒承。

報告事項

1) 令和元年第 6 回理事会(持回り)

水野谷総務担当常任理事より、令和元年第 6 回理事会(持ち回り)についての報告がされた。

2) 第 64 回機関誌編集委員会報告

多和田編集委員長より、機関誌編集委員会で議題となった **Editorial Manager** の位置づけについて説明がされた。また第 49 巻 3 号及び第 50 巻 1,2 号の編集状況についての報告がされた。加えて、第 56 回年次大会の座長評価に基づく地域学研究への投稿依頼についての報告がされた。

氷鉦企画担当理事より APJRS の編集状況についての報告がされた。

3) 第 2 回学会賞優秀発表賞選考委員会・第 3 回学会賞選考委員会報告

酒井委員長より、第 2 回学会賞優秀発表賞受賞者についての報告がされた。決定した 6 名の受賞者の中から最優秀発表賞を決める予定の報告がされた。

4) RSAI の動向

氷鉦企画担当理事より、RSAI の動向について報告がされた。World Congress が 2020 年 6 月にモロッコで予定されている旨報告がされた。

5) PRSCO の動向

渋澤理事より、PRSCO の動向について報告がされた。2020 年 3 月に Pacific Conference of the RSAI が米国ハワイ州オアフ島、2020 年 7 月に Summer Institute がベトナム・ホーチミンで開催されることについて説明がされた。

氷鉦企画担当理事より、故宮田先生に関するスペシ

ャルセッションの企画について説明がされた。

6) 日本経済学会連合 2019 年度第 2 回評議委員会
議について

鐘ヶ江理事より評議委員会議についての報告がされた。

氷鮑企画担当理事より、国際会議派遣補助の応募について提案がされた。

7) その他

水野谷総務担当常任理事より、今後の理事会の開催予定日について説明された。内田理事より、APJRS 英文ジャーナルについて説明がされた。

令和 2 年度 第 1 回理事会 (持回り)

日時：2020 年 4 月 6 日 (月) 15 時

議題について、メール審議に付し、承認された。

議題

1. 第 57 回年次大会 (開催校：東洋大学) の 1 年延期に関する件

諸般の事情を勘案し、第 57 回年次大会 (2020 年 9 月 11 日 (金) ~13 日 (日)、開催校：東洋大学) は、今年度は、実施せず、“従来型の年次大会”の開催を 1 年延期する。

2. 第 57 回年次大会 (開催校：東洋大学) の代替措置の検討に入ることについて

実行委員会、執行部でバーチャルな発表大会の実施方法 (するか否かも含めて) を検討し、再度、審議をする。

令和 2 年度 日本地域学会 第 2 回理事会 (持回り)

日時：2020 年 5 月 27 日 (水) 15 時

4 月開催予定の理事会議題を、「持ち回り開催・メール審議」とし、下記議題審議に付し、承認が得られた。また、下記報告があった。

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認
2. 平成 31 (2019) 年度決算 (案) の審議と承認
3. 令和 2 年度予算 (修正案) の審議と承認
4. 令和 3 年度予算 (案) の審議と承認
5. 平成 31 (2019) 年度事業報告 (案)
6. 令和 3 年度事業計画 (案)
7. 『地域学研究』セット販売の推進

8. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

報告事項

1) 機関誌編集委員会報告

2) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について

3) PRSCO 等の動向 (木南莉莉・理事報告)

2020 WRSA-PRSCO Conference は、新型コロナウイルスの関係でキャンセルされ、RSAI の第 13 回 World Congress は、2021 年 5 月に延期された。

令和 2 年度 日本地域学会 第 3 回理事会 (持回り)

日時：2020 年 8 月 4 日 (火) 15 時

下記議題を審議に付し、承認が得られた。

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認
2. 日本地域学会第 57 回 (2020 年) 年次大会のオンラインでの開催についての承認
3. 奨励賞・論文賞・功績賞に関する規程の改正案の承認
4. APJRS 著作権規程の承認

令和 2 年度 日本地域学会 第 4 回理事会 (持回り)

日時：2020 年 10 月 22 日 (木) 15 時

下記議題を審議に付し、承認が得られた。

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認
2. APJRS ABSTRACT 校正費用の件 (資料 2)

VI. 委員会報告

1. 学会賞選考委員会

日時：令和 2 年 6 月 19 日 (金) 15 時

(持回り開催・メール審議)

下記議題について審議に付し検討することになった。

1. 令和 2 年度第 56 回年次大会学会賞最優秀発表賞選考の件
2. 令和 2 年度第 29 回学会賞の選考方針
3. 令和 2 年度学会賞授与式について
4. その他

日時：令和2年9月25日（金）15時

（持回り開催・メール審議）

令和2年度第2回学会賞選考委員会を持ち回り開催、メール審議に諒承された。

議題

1. 令和2年度第56回年次大会学会賞最優秀発表賞選考の件

慎重な審議のうえ、下記の会員の方々に令和2（2020）年度（第29回）日本地域学会学会賞を授与することを決定しました。

功績賞：該当なし

論文賞：

奥田隆明（南山大学経営学部教授）博士（工学）
主題：国際航空路線の就航による受益地域の特定—訪日外国人流動表を用いた周遊型観光消費モデルの開発—

Karima Kourtit (Open University in the Netherlands, 教授) ph.D. (economics, geography)

主題：Study on 'Smartness' of World Cities: Comprehensive Analysis of Energy-Environment-Economy (3E) Efficiency and Quality of Life（国際都市の‘スマートさ’に関する研究：エネルギー・環境・経済（3E）と生活質の総合的分析）

奨励賞：該当なし

著作賞：該当なし

学位論文賞：

候補者について世話人とレフェリー2名を選定し、審査に入る。

R1 最優秀発表賞（第12回）：

米光結衣（豊橋科学技術大学大学院）
『九州地域における流域水害の経済被害と復旧プロセスの評価』

2. 令和2年度第29回学会賞の選考方針

3. 令和2年度学会賞授与式について

受賞者を総会（オンラインでの実施を予定）等でアナウンスし、賞状等の授与は来年度実施

2. 機関紙編集委員会

第65回 機関誌編集委員会（持ち回り）

日時：令和2年4月27日（月）24時

（持回り開催・メール審議）

議題について、メール審議に付し、承認された。
議題

- 『地域学研究』第50巻掲載候補論文の選考
地域学研究 50巻1号 掲載予定論文について
地域学研究 50巻2号 掲載予定論文について
- 日本地域学会機関誌編集委員会(Editorial Manager: EM)規程について
- Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について現状報告

- 今年度もvol.4として3冊(3号分)発行予定である。そのうち、vol.4,no.1は既に発刊されている。
- Online Firstの論文として、既に、HP上で17編が掲載されている。vol.4, no.2はこれらの論文から抜粋して12編程度で刊行される。
- Special Issueとして、The Science of Spaceが募集されていたが、投稿は締め切られ、早ければ、vol.4,no.3に'Special Feature'として掲載される予定である。(5編前後)
- 現在 Comprehensive Watershed Management: Sustainability, Technology, and Policy (期限延長予定) ; および Regional Sustainability の Special Issue が公募中である。
- 現在の投稿状況は例年通りで、順調である。
- 引き続き編集委員からの企画の提案を募集している。

第66回 機関誌編集委員会（持ち回り）

日時：令和2年10月14日（水）15時

（持回り開催・メール審議）

議題

- 『地域学研究』50巻2号掲載予定論文について10本の掲載の承認と、条件付き採択決定論文の状況報告があった。

日本地域学会 正会員 入会申込書

20 年 月 日

日本地域学会
会長 高橋 秀悦 殿

日本地域学会 会則第5条に定める正会員として下記の通り入会を申し込みます。

氏名： 印

記

ふりがな				年 月 日生 歳 ※男・女
氏名				同英文 (last name, first name)
所 属 先	機関名	(年 月より)		同英文
	所属			同英文
	職名			同英文
	所在地	〒		同英文
	電話： ()		fax: ()	
	e-mail			
自 宅	住所	〒 配送希望先※ (どちらかを○) 勤務先・自宅		同英文
	電話： ()		fax: ()	
	e-mail			
学 歴	年 月入学			
	年 月※卒業・修了・満期退学			
職 歴	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
専 門 分 野	専攻：		学位： (大学)	
	<i>Regional Science Association International (RSAI)</i> の研究領域分類 (複数回答可, 入会案内参照)			
	I. ISSUE ORIENTATION		II. THEORETICAL/METHOD-LOGICAL ORIENTATION	
	III. MODE OF ANALYSIS		IV. REGIONAL FOCUS	
所属他学会				
紹介者 (会員に限る)				印

以上 (※は該当項目に○をする)

事務局記入欄	入会承認	年 月 日 第 回理事会	退会承認	年 月 日 第 回理事会
--------	------	--------------	------	--------------